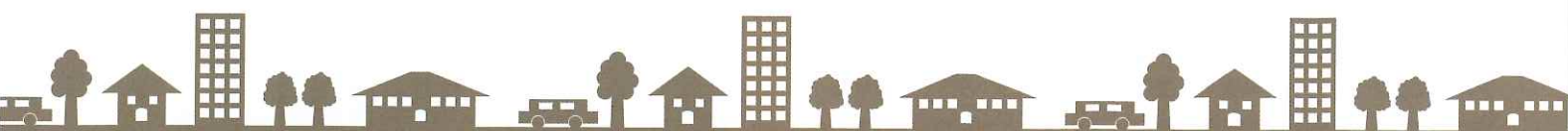




認定 NPO 法人スペースふう

循環型社会を目指して！

活動報告書 2020





スペースふう、 大きく舵を切る。

永井寛子が語る
今、そして未来

コロナ禍による存続の危機からクラウドファンディングへの挑戦を含めた1年間の振り返りと、これからの活動計画。また、世界の状況や国、山梨県の動きの中でのスペースふうの活動について報告します。

「存続の危機」を乗り越え、次なる目標へ

コロナ禍に入って約1年半が経ちましたが、スペースふうの現状は？

昨年1月からコロナ禍によってイベントが全く無いという状況になり、事業の存続か、それとも廃業かという、スペースふう創業以来20年で初めての危機を迎えました。スペースふうが廃業すればプラスチックごみ問題は深刻化していくだけ。社会の中で果たすべき役割がもっと、もっとあるはずだという思いで昨年8月、クラウドファンディングに踏み切りました。目標金額の達成と、さらに直接寄付をしてくださる方々もあって、事業の継続が可能となりました。ご支援くださった皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

これにより、私たちはこれからの活動について「しっかりと考える時間」をいただけました。スペースふうは今、これからの活動に向けて一歩ずつ歩み始めています。

具体的にはどういった事業でしょうか。

まず注目したのは、使い捨て弁当容器のごみ問題です。コロナ禍で、テイクアウトの増加などライフスタイルの変化によって、使い捨てプラスチックの弁当容器のごみが溢れかえるという新しいごみ問題が全国的に発生しました。

スペースふうはこれまで、イベント時の使い捨て食器のごみ削減に取り組んできた経験上、お弁当の使い捨て容器を減らすという課題も、スペースふうの担うべき活動の一つであると考えに至りました。そして、「お弁当容器をリユースに」という新たな活動へと舵を切ったのです。まずは地元富士川町の議会に「議会の会期中に注文するお弁当の容器を、使い捨てからリユースにしませんか」と呼びかけたところ、「環境に良いことだ」と積極的に支持してくれました。議会が普段お弁当を注文している町内のお弁当業者さんも快く理解を示してくれました。一軒一軒業者さんを回って細かいことの打ち合わせをしたうえで、リユース弁当容器を使っていただくことが実現しました。

もう一つの試みは、社会福祉協議会が実施している、高齢者への配食サービス事業のお弁当容器のリユース化です。今は実証実験に向けて準備を進めているところです（p5参照）。

そして、私たちは、コロナがきっかけでさらに新たな分野へと活動を広げていくことになりました。

「コロナが改めて気づかせてくれたもの……」

コロナ禍をきっかけに、

スペースふうの活動も変化したということですね。

そうです。SDGsの「誰ひとり取り残さない」という理念の大切さを、コロナ禍は改めて気づかせてくれました。コロナによって職を失ったり、社会から孤立してしまっている人たちが大勢うまれています。この地域にも、私たちの近くにもいるかもしれないって思ったら、居ても立ってもいられなくなっちゃって……。誰かが動き出さなきゃいけない！と思っていた矢先、地域の中で支援するネットワークをつくろうという人たちがつながったんです。

この社会に生きづらさを感じている人たちのもに、リユース容器のお弁当を直接手渡して、容器をまた回収する。この時に交わす「一言」を通じて「ひとりじゃない」「仲間がいるんだ」と実感してもらいたい、と強く思うようになりました。

具体的な計画はありますか？

金銭面では3年継続の助成金を申請しました。また、これまでは環境のことばかりをやってきたので、社会のなかで孤立しがちな人たちと、どうやって繋がっていったら良いのかなど、分からない点も多々あります。そういう課題については、関係者のご協力をいただきながら少しずつ力をつけているところです。目標では、今秋にスタート。今年度中は試行期間として経験を積んでいくことになると思います。対象地域は、まずは富士川町から始めて、いずれ周辺地域へ広げていきたいと思っています（p5参照）。



「社会の課題を解決する」という姿勢は変わらない。

やっぱり、みんなが「ここに住んでいて良かった」と思える社会にしたい。地域の課題を前にして、「いったい私たちスペースふうに何ができるのだろう？」と考えました。そして出した結論は、「『環境』というスペースふうの軸足を生かしながら、地域の課題に向き合える活動をしよう」ということでした。生きにくさを感じ、働きたくても働けない若者や若いママたちと出会い、つながることで社会への一歩を踏み出すお手伝いならできるかもしれない。今までスペースふうで働いてくれた仲間たち、そしてこれから関わろうとしてくれる仲間たち、スペースふうは「つながり」を大切にしながら、みなさんを待っています。

「循環型社会へ」世界は大きく動いている！

この1年の世界の動きや、国や山梨県との関わりは？

世界はますますSDGsを推進していきますね。スペースふうも、この1年間に就いて言えば、地元役場の職員や企業、他の自治体などを対象に、カードゲームを通して学ぶSDGsの研修会を実施しています。その際、リユースのお弁当容器で食事をしてもらい、SDGsに深くかかわるプラスチックごみ削減への啓発活動へとつなげています。

使い捨てプラスチック削減の流れのなかで、これまで「日本は遅れている」と海外から指摘されてきましたが、今年6月に「プラスチック資源循環促進法」が国会で成立しました。これはプラスチックごみの削減とリサイクルを促進する法律です。手ぬるいところもあるけれど、それでも日本が世界に向けて「2030年までに目指します！」と表明したことは、ひとつ評価したいと考えています。そして、これを武器として前に進められるところはどんどん進めていこう、と前向きに捉えています。

「手ぬるい」との言葉がありましたが、

この新法の課題は何だと考えていますか？

プラスチックごみ削減に向けて代替素材の活用やリサイクルを促進するという法律ですが、プラスチックを他の素材に替えたところで、『使い捨て』では結局ごみは減らないですね。焼却するにしてもリサイクルするにしてもエネルギーを消費する。ごみを減らすためにはやっぱり『リデュース（ごみとなる物を減らす）』『リユース（繰り返し使う）』が重要なんです。最近よく「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」という言葉を目にしますが、これは、これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄の経済の仕組みを、サーキュラーエコノミーへと変えなければいけないという考え方です。日本では、プラスチックのリサイクル率が高い（80%）などと言われていますが、実際にはごみを焼却する際の「熱回収」もリサイクル率にカウントしているだけであって、欧米ではこれをリサイクルとはみなしていないそうです。リサイクルとは、発生したごみをもう一度資源に戻して、再び製品をつくるものだという解釈が欲しいですね。ちなみに、日本ではごみは最終的には燃やすもの、という意識がありますが、世界中の焼却炉の70%は日本に集中しているという事実をどう考えればよいのでしょうか。今こそサーキュラーエコノミーへの転換が求められているのです。

山梨県の動きはどうか？

県は、昨年11月に、県内の事業者、民間団体、教育関係者、行政等が一体となって、プラスチックごみの発生抑制に向けた取り組みを

推進するために『やまなしプラスチックスマート連絡協議会』を設立しました。スペースふうもこの協議会のメンバーとして参加しています。

この協議会の令和3年度の事業は、①リユース食器の普及、②マイクロプラスチック河川調査（富士川流域）、③流域他県と連携した環境美化イベントツアーの3つです。当然、1つ目の『リユース食器の普及』は、スペースふうの活動を後押ししてくれます。また、環境教育の推進についても今回提案させていただきました。ニューヨークの小学校でのプラスチックごみ削減授業のドキュメンタリー映画を見る機会がありました（『マイクロプラスチック・ストーリー～僕らが作る2050年～共同監督 佐竹敦子・デビー・リー・コーヘン』）。2年間の子どもたちの学びが、最終的に学校を変え、地域を変えていく力となっていくんです。子どもたちですごい力をもっているんですね。ワクワクしながら映画を見ました。日本の学校教育にも是非参考にさせていただきたいと思いました。



今後の抱負を聞かせてください。

コロナはいつ収束するのか分からないし、ライフスタイルも変わっていくでしょう。でも使い捨てプラスチック容器のごみを減らす、という方向性は絶対に変わらない。コロナによってこの動きをゆるめてはいけないということは確かです。自信を持って進めていきたい。それが社会の大きな流れだし、スペースふうの役割だと思っています。

また、イベント関係者の皆様においては、長期化するコロナ感染拡大の厳しい状況にあっても、新しいイベントスタイルの新しい価値を生み出しながら、一緒に使い捨てごみ削減に力を出し合っていけたらと思っています。

最後に一さらなるご支援のお願いです！！

スペースふうは、「リユース弁当容器」の普及に向け、新たな歩みを始めました。慣れないことも多いなか、でも希望をもって「循環型社会」を目指して活動を続けていきます。

どうか、これからのスペースふうの活動を見守ってください。皆様の応援があってこそ、スペースふうの活動が持続可能となります。これまで同様、変わらぬご支援をぜひ、お願いいたします。

インタビューを終えて /

リユース食器のコンテナが積まれた作業場でのインタビュー。以前と比べれば圧倒的に少なくとも、スペースふうの活動が続いているという証が目に見えるとホッとします。リユースのお弁当容器の導入、地域のネットワークづくり、環境教育など、新しい事業の計画を伺って、「社会の課題を自分事で考えていく」というスペースふうの姿勢は変わらない、それどころかここで新しいことへ挑戦するのか！と敬服しました。自分の日々も省みて、目線高く歩いていかねばとグッと背筋が伸びました。



島田環さん
ライター・編集者
北社市在住



リユース食器レンタルの利用普及事業

コロナウイルス感染症拡大により全国的にイベントが中止・自粛となる中、イベント 15 件、4,250 個のリユース食器を貸し出し、使い捨て容器ごみの削減に貢献しました（前年度 99.4%減）。また、ウィズコロナ時代においてリユース食器を安心してご利用いただくために、その案内 POP を作成し、利用していただきました。

コロナ禍の現在、人々のライフスタイルの変化は、使い捨て弁当容器のごみの急増を招いています。現在、弁当容器のリユース化に向け準備を進め、リユース弁当容器の貸出業務を試験的に実施しています。

森のようちえんきらきら星
理事長 宇田川様より



森のようちえんということで、日々自然の中に身を置いていることもあり、環境をより良いものとするのは身近な事になっています。幸い、町内にふうさんがいらしゃり、ようちえんのイベントでは、お世話になっております。来店すると、アットホームな雰囲気の中、笑顔で対応してくださる皆さんとお話も楽しいです。リユース食器のバリエーションも多く、子どもサイズも充実しているのもうれしいです。

利用者の声



ヴァンフォーレ甲府エコスタジアムプロジェクト

2020 シーズンは、新型コロナウイルスの影響で、10 月以降に開催された ホームゲーム 9 試合 のみの使用となりました。感染拡大防止策を講じながら、リユース食器の利用は約 2,400 個 になりました（前年度 95.7 %減）。それでも、サポーターの方々からは「このリユースカップで飲むのも久しぶりだなあ」等と懐かしむ声も聞かれ、制限がある状況下でも、多くの方々のご協力のもと、リユース食器の回収・ごみ分別回収を行うことができました。



これからもリユースで

おめでとう！
ヴァンフォーレ甲府

日本財団と環境省が共同実施している「海ごみゼロアワード 2020」において ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブが「ヴァンフォーレ 甲府エコスタジアムプロジェクト」の取り組みで最優秀賞を受賞しました。一緒に活動しているスペースふうとしても喜ばしく思います。



リユース食器事業者をつなぐ全国ネットワークふうネット事業

スペースふうが事務局となり、毎年東京で開催されてきた「ふうネットサミット」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、やむなく中止となりました。当面、ふうネット会員同士で情報交換をしながらリユース食器事業の新しい展開を目指します。



環境啓発推進事業

2020 年度はオンラインも含め山梨県内外で 13 回の講演・講義等を行いました。

保育園の子どもたちから高齢者の勉強会まで幅広い年代の方々に、スペースふうの活動や使い捨てプラスチックごみ問題について理解していただきました。



with コロナ after コロナ

歩みを止めないスペースふう

2021 年では、2 つの助成事業がスタートしています

2020-2021

助成事業

01

「使い捨てをリユースへ」 Bento 容器からつながる SDGs アクション事業

使い捨てプラスチックごみの削減を目指して、弁当容器を使い捨てからリユースへと切り替えるため、主に 2 つの活動に取り組みます。

① リユース弁当容器の試験的運用！

富士川町社会福祉協議会が高齢者向けに提供している宅配弁当で、期間限定で使い捨てからリユース弁当箱を利用していただき実証実験を行います。今回の利用を通して、運営上の課題や改良点を把握し、持続可能な利用を目指します。



念入りに
打ち合わせ中

② おいしく学ぼう、SDGs！

リユースお弁当容器でお弁当を食べながら、SDGs を楽しく学ぶ体験会を複数回実施します。田中実氏（2030 SDGs 公認ファシリテーター）を講師に迎え、持続可能な社会の実現に向けて楽しく学びます。



SDGs をもっと
ジブンゴトにしよう



積水ハウスマッチングプログラム事業
助成期間：2021 年 4 月～2022 年 1 月

助成事業

02

リユースお弁当箱がつなぐ 地域デザイン事業

●リユースの手間こそ、実は大切

リユースお弁当箱は、使い捨て容器と異なり、行って戻ってを繰り返す手間が生じるしくみです。でも、実はこの手間は誰かと誰かをつなげる大切な接点にもなります。スペースふうではこのリユースのしくみを活かし、孤立しやすい産後 0～4 ヶ月のママを中心に、お弁当をお届けしながらつながりを大切にするリユースお弁当箱事業にチャレンジします！！

●素人だからできることがある

スペースふうは、これまで子育て事業を実施した経験があるわけでもなく、また、福祉のプロでも専門家でもありません。だからこそできることがあるのではないかな。行政や様々な団体とともにチカラを合わせ、本事業に取り組んでいきます。また、地域の中にいる働きたいけど働きにくい人たちにこの事業に関わってもらえる機会をつくっていきます。

産後ママの
孤立を防ぎたい



地域の働く機会を
作りたい



休眠預金事業 / 草の根活動支援事業
甲信地域支援と地域資源連携事業
助成期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

チャレンジ
01

チャリティー T シャツ 等を販売します！

期間限定 2021/9/13～9/19（予定）

チャリティー専門のファッションブランド JAMMIN（京都）の協力のもと、1 週間限定でスペースふうの活動をデザインした T シャツ等を販売します！集まったチャリティーは、スペースふうの活動費用として活用させていただきます。



JAMMIN

ぜひ購入
してください

チャレンジ
02

チャレンジ中！ スーパーの リユーストレー！

現在、スペースふうでは、スーパーの使い捨てトレーごみの削減に向けて、協力業者と意見交換を進めながら実用化に向けて検討を重ねています。リユーストレーの機能、形状、レンタルのしくみづくり等難しい課題もありますが、それらを克服できるよう実現に向けて取り組んでいます。

この他、新しい企画を準備中です。
公式サイトやフェイスブックにてご案内いたします。

HP



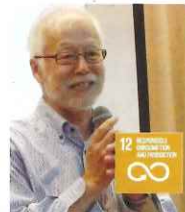
Facebook



皆さまとともに想いを事業という形に変え、循環型社会の実現を目指します

皆さまからいただいた会費、ご寄付はリユース食器の普及に伴う事業、社会の課題解決に向けた事業の力とさせていただきます。未来につなげる社会を目指して活動するスペースふうにご支援をお願いします。

支援者の声



NPO 法人プラスチックフリージャパン
代表理事 小島政行 様

プラスチックによる海洋汚染や健康被害をなくしたいという思いで活動が続ける中、使い捨てプラ食器をなくすことを目的に、山梨から全国区で活躍するリユース食器の使用サポート団体「スペースふう」を応援してきた。コロナ禍でビッグイベントのなくなる中、皆さんからの応援含めての自助努力で、継続の目途がたち、今後の活動に励みが付いたと聞き、一安心している。これからも、リユース食器の普及目指して頑張ってください。応援してまーす。



大久保 結 様

私は「プラスチックのリデュース・リユース・リサイクルとその方法」という中学校の自由研究でスペースふうについて調べました。そしてリユース食器を導入することがプラスチックの使用を減らし、CO2の排出量を削減させ、環境問題改善に繋がることを学びました。私が学んだことを友人や若い世代の人に伝え、環境問題に関心を持つ人を増やし、使い捨てが当たり前ではない社会を作っていきたいと思います。そしてこれからも活動を応援していきたいです。



大久保 絹 様

スペースふうの存続のためのクラウドファンディングで支援に携わることができました。テイクアウトの需要により、プラスチックゴミが増加の一途をたどる中、スペースふうが目指す循環型社会の実現に向けて、私たちの生活の見直しが必要だと感じます。アマゾンの森の火事を食い止めるため、1滴の水を運び続けたハチドリのように、私自身も日々の生活の中で環境に配慮した行動を心がけ、今後もスペースふうを応援していきたいと思っています。

親子で応援♪

循環型社会を実現するために、皆様のご支援・ご協力をお願いします

会員募集

正会員 〈年会費〉団体・法人 **10,000円** / 1 □
個 人 **5,000円** / 1 □

当法人の活動に賛同し継続して支援して下さる方
総会での議決権はあります

賛助会員 〈年会費〉団体・法人 **10,000円** / 1 □
個 人 **3,000円** / 1 □

当法人の活動に賛同し継続して支援して下さる方
総会での議決権はありません

寄付募集

当法人を財政面から随時支援して下さる方 **3,000円** / 1 □～



※正会員は税の優遇措置がありません。賛助会員・寄付は税の優遇措置があります。確定申告の時期に証明書を送付いたします。

お振込先

ゆうちょ銀行振込の場合：郵便局払込取扱票にて 00250-5-95852 NPO 法人スペースふう
銀行振込の場合：山梨中央銀行 青柳支店 普通口座 318874 特定非営利活動法人 スペースふう 理事長 永井寛子

活動計算書

(単位:円)

	前期 平成31年4月1日から 令和2年3月31日まで	当期 令和2年4月1日から 令和3年3月31日まで
I 経常収益		
1 受取会費	345,000	120,000
2 受取寄附金	2,329,000	7,263,000
3 事業収益	23,412,849	815,103
4 その他収益	319,679	219,454
経常収益計	26,406,528	8,417,557
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費	11,951,060	4,443,007
(2)その他経費	15,094,779	5,562,375
事業費計	27,045,839	10,005,382
2 管理費		
(1)人件費	885,241	715,237
(2)その他経費	423,900	677,134
管理費計	1,309,141	1,392,371
経常費用計	28,354,980	11,397,753
当期経常増減額	△ 1,948,452	△ 2,980,196
III 経常外収益	0	3,763,749
IV 経常外費用	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 1,948,452	783,553
法人税、住民税及び事業税	71,209	71,213
当期正味財産増減額	△ 2,019,661	712,340
前期繰越正味財産額	4,310,860	2,291,199
次期繰越正味財産額	2,291,199	3,003,539

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、イベントの中止が相次ぎ、リユース食器レンタル収益を含む事業収益が大幅に減少しました。新たにクラウドファンディングを行い、受取寄附金が増加しましたが、事業収益の減少による影響が大きく、経常収益は、前期比 1,798 万円減少の 841 万円となりました。その他、新型コロナウイルス関連の補助金申請を行い、経常外収益は、376 万円となりました。一方で、事業収益減少に伴う人件費減少及び、徹底した費用削減への取り組みにより、経常費用は、前期比 1,695 万円減少の 1,139 万円となりました。その結果、当期経常増減額は前期比 103 万円減少の△298 万円となりましたが、経常外収益も含めた当期正味財産増減額は、前期比 273 万円増加の 71 万円となりました。

次年度は、2 つの助成事業に取り組みながら、弁当容器のリユース化を進めます。

貸借対照表

(単位:円)

	前期 令和2年3月31日現在	当期 令和3年3月31日現在
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	7,437,178	4,632,681
売掛金	6,754	133,313
未収入金	0	433,300
貯蔵品	899,859	890,554
前払金	150,000	150,000
流動資産合計	8,493,791	6,239,848
2 固定資産		
有形固定資産	12,536,981	10,966,730
投資その他の資産	100,000	100,000
固定資産合計	12,636,981	11,066,730
資産合計	21,130,772	17,306,578
II 負債の部		
1 流動負債		
短期借入金	1,200,000	1,200,000
未払金	842,035	623,673
未払法人税等	71,000	71,000
未払消費税等	566,500	0
前受金	894,894	322,532
預り金	28,144	48,834
流動負債合計	3,602,573	2,266,039
2 固定負債		
長期借入金	8,636,000	7,436,000
役員借入金	6,601,000	4,601,000
固定負債合計	15,237,000	12,037,000
負債合計	18,839,573	14,303,039
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	4,310,860	2,291,199
当期正味財産増減額	△ 2,019,661	712,340
正味財産合計	2,291,199	3,003,539
負債及び正味財産合計	21,130,772	17,306,578

財務諸表は、山本薫公認会計士事務所の助言のもと
NPO 法人会計基準に準拠して作成しております。

スペースふうは、これからもさまざまなことに挑戦します!!
ごみゼロに挑戦し続けるスペースふうへのご支援をお願いします。

発行日: 2021年9月
発行: 認定 NPO 法人スペースふう
編集長: 長池伸子 デザイン: 上鶴恵子
印刷: 株式会社フォーワークス